

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00401

研究課題名(和文) アメリカ文学における反奴隷制文学の系譜

研究課題名(英文) Antislavery Literature in America: Tradition and Heritage

研究代表者

野口 啓子 (Noguchi, Keiko)

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：60180717

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アメリカ作家ハリエット・ビーチャー・ストーの『アンクル・トムの小屋』(1852)を中心とする反奴隷制文学が、19世紀中葉のルネサンス期に隆盛を迎え、一つの文学ジャンルを形成したこと、またそれはアンテベラム期のみの一時的現象ではなく、古くは18世紀に萌芽があり、ルネサンス期を経て、さらには、ポストベラム期以降のアメリカ文学に脈々と受け継がれていったことを系統的に検証することで、その流れを明らかにした。またその過程で、反奴隷制文学とその他の文学ジャンルとの間テキスト性や相互影響を明示することで、より大きな文学史のなかに位置づけることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

反奴隷制文学は、これまで黒人の手になるスレイヴ・ナラティブや、奴隷制廃止論者による政治的訴えや小説のなかで個別に捉えられてきたが、本研究は、それらを総合的にまとめて系統づけたことで、一つの文学ジャンルとしてその系譜と時代・人種・ジェンダーによる特徴を可視化することができた。そのなかでとりわけ大きな要素となったのが、ストーの『アンクル・トムの小屋』であったが、この小説との影響関係をたどることで、これまで「政治的プロパガンダ」として文学史から除外されてきたストーの作品を再評価し、アメリカ文学史にも一つの視座を加えることができた。

研究成果の概要(英文)： This study elucidates the stream of antislavery literature, with Harriet Beecher Stowe's "Uncle Tom's Cabin" in its center, and makes it clear that the literary genre emerged in the late eighteenth century, reached a culmination in the mid-nineteenth century (the period of American Renaissance), and was incorporated into the mainstream of American literature after the Civil War. The study also presents rich intertextuality between antislavery literature and many other literary genres and is, thereby, able to place it in a broader history of American literature.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：反奴隷制文学 ハリエット・ビーチャー・ストー アメリカン・ルネサンス

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は先行する2つの研究「ハリエット・ピーチャー・ストーと反奴隷制文学」(基盤研究(C) 課題番号 24520312、平成24年度～26年度)および「反奴隷制文学の諸相——もう一つのアメリカン・ルネサンス」(基盤研究(C) 課題番号 16K02507、平成28年度～30年度)の発展的研究として企画したもので、研究開始当初には、ストーの『アンクル・トム的小屋』と同時代のスレイヴ・ナラティブとの影響関係や19世紀半ばのルネサンス期に隆盛した反奴隷制文学の特徴などについてはある程度検証済みであったが、膨大な奴隷制をめぐる政治的文書や、雑誌、小冊子、新聞等における反奴隷制の言説などを系統的に捉えるにはいたっていなかった。

(2) 反奴隷制文学の研究は、ルネサンス期の隆盛期に集中しているが、本研究においてはこの文学の系譜を萌芽期、隆盛期、ポストベラム期の3つの時期に分けて考察することを目指した。研究開始当初においては、特に資料が乏しい萌芽期における反奴隷制文学の発掘ならびに反奴隷制を訴える雑誌・新聞等の資料収集と分析が必要であった。また、反奴隷制文学がポストベラム期以降もアメリカ文学に受け継がれていったことを検証するために、マリア・リディア・チャイルドやマーク・トウェインなど、奴隷制を背景にした諸作品の分析が必要とされた。

2. 研究の目的

本研究は、アメリカ作家ハリエット・ピーチャー・ストーの『アンクル・トム的小屋』(1852)を中心とする反奴隷制文学が、19世紀中葉のルネサンス期に隆盛を迎え、一つの文学ジャンルを形成したが、それはアンテベラム期のみの一時的現象ではなく、古くは18世紀に萌芽があり、さらにはポストベラム期以降のアメリカ文学に脈々と受け継がれていったことを明らかにしようとしたものである。ジェファソンが独立宣言で謳った「イギリスへの隷属からの自由」は、反奴隷制文学において黒人奴隷とその解放というアナロジーを提供し、自由平等を掲げた民主国家の理念との矛盾を突きつけることになった。それはさらにルネサンス期アメリカ文学において社会的制約と個人の自由との超越主義的でロマンティックな格闘とも結びつき、その後は普遍的な社会と個人の問題として現代文学に浸透していくこととなった。本研究は、このようなパースペクティブから、アメリカ文学における反奴隷制文学の系譜を通時的に考察しようとするものである。

3. 研究の方法

(1) 反奴隷制文学を通時的に捉えるために、その系譜を萌芽期、隆盛期、ポストベラム期の3つの時期に分けて考察した。

(2) 特に資料が乏しい萌芽期における反奴隷制文学の発掘ならびに反奴隷制を訴える雑誌・新聞等の資料収集と分析を集中的に行った。

(3) 反奴隷制文学の隆盛期(ルネサンス期)には、他の文学との間テクスト性を視座に、同時代の文学作品を「(反)奴隷制」のテーマで再読することを試みた。

(4) 対象とするテキストを従来のようにスレイヴ・ナラティブや小説等に限るのではなく、政治的な訴えや、演説、小冊子や新聞、雑誌等で表現された「反奴隷制の言説」も、反奴隷制文学として総括的な考察を加えた。

4. 研究成果

(1) 反奴隷制文学は、これまで黒人の手になるスレイヴ・ナラティブや、奴隷制廃止論者による政治的訴えや小説のなかで個別に捉えられてきたが、本研究は、それらを統合的にまとめて系統づけたことで、一つの文学ジャンルとしてその系譜と時代・人種・ジェンダーによる特徴を可視化することができた。

(2) 本研究においてとりわけ大きな要素となったのが、ストーの『アンクル・トム的小屋』であったが、この小説との影響関係をたどることで、これまで「政治的プロパガンダ」として文学史から除外されてきたストーの作品を再評価し、アメリカ文学史にもう一つの視座を加えることができた。

(3) ストーを中心とする反奴隷制文学を、同時代(アメリカ・ルネサンス期)の他の作品と比較検証する過程で、これまで「奴隷制」のテーマで考察されることの少なかった文学ジャンル(家庭小説、ゴシック小説、冒険小説など)の作品との間テクスト性が明るみとなり、ルネサンス期の文学の新たな読みの可能性が広がった。

(4) 萌芽期におけるデイヴィッド・ウォーカーの『訴え』やリチャード・ヒルドレスの『奴隷』は、まだほとんど研究がなされていないが、反奴隷制文学の重要なテキストとして光を当てることができた。

(5) 北部出身の元奴隷ソジャーナ・トゥルースのスレイヴ・ナラティブは、当初は本研究に含

まれていなかったが、北部の奴隷制の特徴を考察するうえで重要であることが判明した。とりわけ、ハリエット・ウィルソンの『うちの黒んぼ』において無言化された性の問題をより深く理解するうえで有効であることが明らかとなった。

(6)以上、全体を通して、反奴隷制文学の隆盛がアンテベラム期のみの一時的現象ではなく、アメリカ文学において一つのジャンルを形成し、それが「束縛と自由」という普遍的なテーマとなってポストベラム期以降も脈々と受け継がれていったことを検証できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Keiko Noguchi	4. 巻 66
2. 論文標題 Narrative of Sojourner Truth (III): A Self-Produced Black Woman	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tsuda Review	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Noguchi	4. 巻 65
2. 論文標題 Narrative of Sojourner Truth (II): Mythmaking of Truth in the "Book of Life"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Tsuda Review	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Keiko Noguchi	4. 巻 64
2. 論文標題 Narrative of Sojourner Truth (I): A Narrative of a Female Slave in the North	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Tsuda Review	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Keiko Noguchi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Sairyusha	5. 総ページ数 341
3. 書名 Harriet Beecher Stowe and Antislavery Literature: Another American Renaissance	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------